

令和7年度  
第1回 家庭教育支援連絡会 会議録

1 日時

令和7年7月22日（火）午前10時～11時

2 場所

池の里市民交流センター2階 青少年の居場所スマイル スタディの部屋

3 出席委員

権永委員長、東田副委員長、田中委員、茂上委員、白石委員、九條委員

山口委員、島津委員、岩本委員、木場委員、石村委員、川原委員

4 事務局

岡元課長、濱村係長、川上、西岡

5 会議次第

(1) 開会

① あいさつ

② 自己紹介

③ 委員長、副委員長選出（権永委員長・東田副委員長に決定）

(2) 案件

① 家庭教育学級について

② 寝屋川市家庭教育サポートチームについて

③ ねやがわ子どもフォーラムについて

④ その他・情報交換

## 会議録

### 1 開会

社会教育推進課濱村係長より連絡会の概要説明後、各委員の自己紹介を行うと共に、委員長、副委員長の選出を行った。

### 2 案件

#### (1) 家庭教育学級について

##### 家庭教育講座

全 23 小学校で開催する。

講座の内容は、SNS など「家庭での情報モラル」が人気。既に 8 校で開催した。残る 15 校に関しても、インターネット関係の講座希望が多い中、児童の発達や心理状態に関する講座希望あり。

#### (2) 家庭教育支援者スキルアップ講習会

市内の家庭教育支援者、またこれから家庭教育支援者として活動する方を対象に、スキルアップを目的として実施。講習会受講者の中から、次年度の「家庭教育サポーター」の希望者を募り、活動していただくことを目的としている。時期は令和 8 年 1 月と考えているが、内容は検討中。

### 3 寝屋川市家庭教育サポートチームについて

家庭教育サポーターの活動実績について説明。

今年度は全 23 小学校に各 1 名、エリア担当として 1 名を任命し、新サポーターの配置校等を巡回していただいている。地域や関係機関と連携しながら、保護者の良き相談相手になり、家庭の健全化を図り、子どもの生活改善につながるよう活動していく。

### 4 ねやがわ子どもフォーラムについて

- ・開催概要の説明（開催日：令和 8 年 2 月 14 日（土）を予定）
- ・家庭教育支援連絡会委員の所属団体にも周知を依頼していく。

## 5 その他・情報交換

### 【民生委員・児童委員協議会】

主任児童委員は1人欠員の23人で頑張ってやっています。こどもを守る課に来ていただき研修を行ったりしています。次の日曜日（7月7日）に寝屋川市駅で「こどもまんなかフェスタ」を行います。主任児童委員はバルーンアートを作り子どもたちに配ろうと思っています。

### 【保育所】

こども園になり2ヶ月が経ちました。子どもたちの生活の様子とか、幼稚園とはまた全然違った形で見させていただいている。支援を要する人たち、保護者、たくさん支援が必要な方々もいるので職員一丸となり、今一生懸命頑張っているところです。

### 【こどもを守る課】

守る課は寝屋川市の虐待通告窓口になっています。通告があった際には家庭訪問等をさせていただいて対応する中で、親御さんが精神疾患の場合には市のサービスを入れたり、子育ての仕方が分からぬ場合は、臨床心理士が発達相談や悩み相談を行っていますので、窓口を案内して継続的に支援・関わっていくというようなことをしています。

件数は年々増えているので、もうパンクするかなというような感じではあります。

### 【子育て支援課】

未就学児の遊べる地域の支援センターは12か所あります。直営は2か所、民間保育園の支援センター5か所、概ね3歳未満の利用できる集いの広場が5か所あります。

ファミリーサポートセンター事業があり、問い合わせが多いのは、小学生のお子さんが登校の時間帯に保護者が早く仕事に行ってしまうので見てほしい、学童からのお迎えの間見てほしい、学校が終わってから習いごとに連れて行ってもらい、習いごとから家に帰るというところを見届けてほしいという問い合わせがコロナ禍になってからは増えてきたということを感じています。

多子減免事業もしており、兄弟がいれば二子目は無料というところで、予算がありながら何とかやっている状態ですが、たくさんの人たちが活用したい

ということで申請や問い合わせがよくあるなということを感じています。近くに見てもらえる人が少ない人たちが多いかなと実感しています。

#### 【家庭教育サポーター】

・前は未就学児頃にあまり外で遊ぶ経験がなく入学してくる子どもが、母と一緒に公園で遊ぶという機会がほとんどない状態でした。先生たちが授業の合間に外遊びしようとか、その場で何か好きなことやっていいというときに、遊び方が分からぬ子がちらほらいるなという印象だったが、それが改善されつつあり、嬉しいと思っています。

また、欠席することをさくら連絡網に入れてくれ、すごく有難いと思っています。今はさくら連絡網で学校からの配信等を確認できるので、学校と連絡がとりやすい状況なので、登校渋りのお母さんにはさくらメールでいいから、入れてくれると様子が分かるのでお願いしますと伝えています。そうすれば、入れてくれることが多いように感じています。

・機転の利かない子どもが前より増えたと感じます。昔は学校が終わってからは自分たちでこの後の行動をどうするか決めていたが、今は親の指示を素直に受け止め行動している。各家庭のルールがあるので破るものではないが、親とのせめぎ合いもあまりしていないのではと少し気になります。

・様々な学校で勤務させてもらっているが、登校班で時間通りに登校できる等、地域や環境が違えば全く変わるということを感じています。各々の地域等に合わせてサポーターの活動も変わっていかないといけないと感じています。

#### 【幼稚園】

公立幼稚園がこの4月から2園になり、通っている子どもたちは広範囲に広がってきています。その中でも海外の子どもたちもたくさんおり、保護者の方はその分悩みを抱えている方が多いなと感じています。コロナ禍で子育てをしてきた方々が誰かに相談したくてもどうしたらいいのか分からぬ、保護者同士で毎日顔合わせているが、関わりたくてもどのように声をかけていいのか分からないという感じを、毎日の送迎時に保護者の方の悩みから感じています。自分たちに何ができるのか探し探りながらやっているところです。

#### 【小学校】

朝の状況等は幼稚園や保育所と一緒に、その課題が小学校、中学校とずっと

続いている状況です。その分、家庭教育を支援する体制が整ってきたと思いま  
すが、アメリカでしたら赤ちゃんが生まれる前から支援する体制が始まります。  
まだ日本はどちらかといえば、一度親に頑張らせて、ギブアップやつまずいた  
ときから支援がスタートする。そうでなく、事前にすることでもっと安心安全  
に過ごせるのではないかと思っています。